

日進市一般廃棄物処理基本計画 見直しました。

【計画期間：平成 29 年度から 38 年度】

- ・日進市では、平成 23 年度に一般廃棄物処理基本計画を策定し、ごみの適切な処理、ごみの減量や資源化の推進等に向けた目標や施策を設定しました。この計画に基づき、これまで、市民や事業者のみなさんの協力により様々な取組を行い、一定の成果をあげています。
- ・その後の状況として、日進市ではまちづくりや人口の増加が進む中で、市民の意識や社会経済動向が変化するとともに、国の廃棄物に関する目標値も修正されています。この状況を踏まえ、当初の策定から 5 年が経過したため、計画を見直すこととしました。



<計画の見直しの背景>

◆ごみの最終処分場が不足しています！

- ・焼却やリサイクルできないごみ、焼却した灰は埋立処分していますが、その場所は市外に頼っています。ごみの減量や資源化を進めないと、埋立する最終処分場がなくなってしまいます。

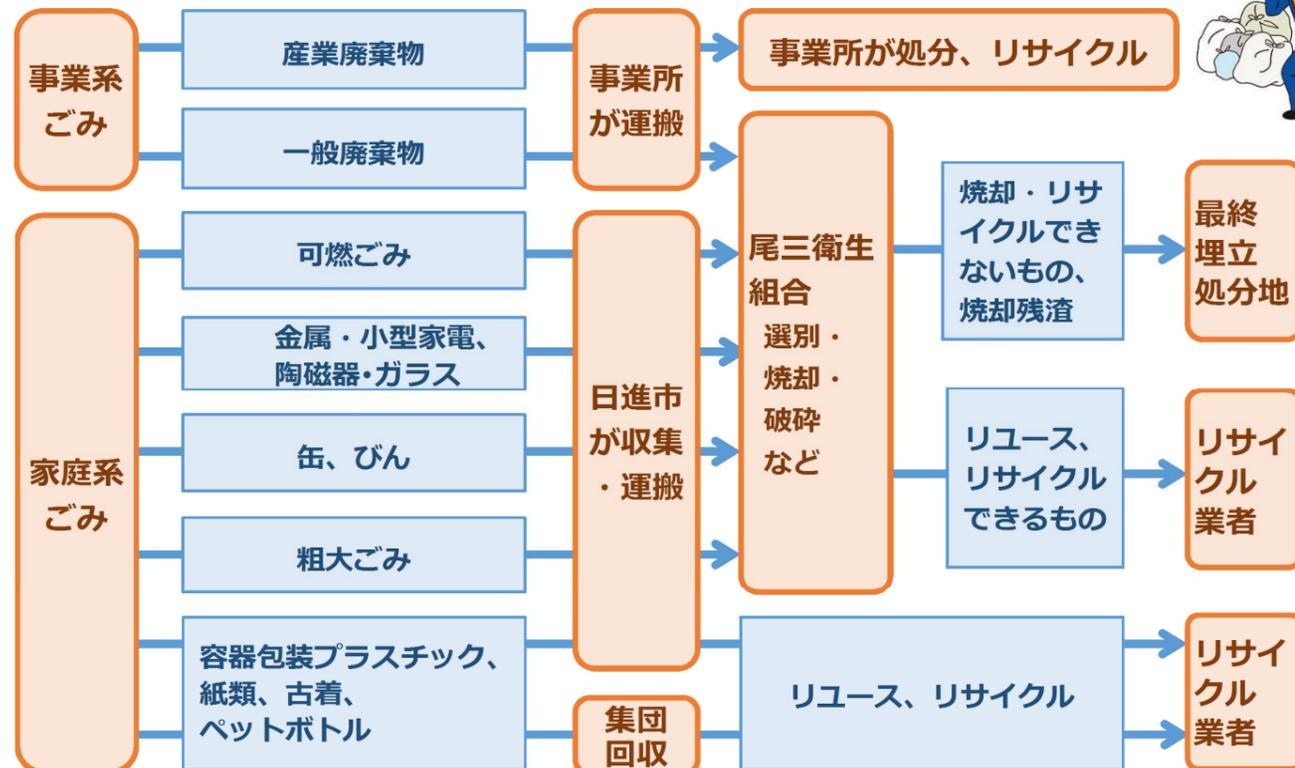
◆資源の有効活用が求められています！

- ・大量生産・大量消費・大量廃棄型から、資源循環型への移行が必要となっています。このため、モノを大切に使い続けるとともに、再生利用を増やしていくことが求められます。

◆ごみ処理費用の抑制が求められています！

- ・人口や事業所の増加に伴い、ごみ処理費用が増加するとともに、福祉や教育、まちづくりなどの費用も必要となります。そのため、ごみ処理の効率化による費用の低減が求められます。

<日進市におけるごみ処理の流れ>



<この計画を通じて目指すこと> 日進市の家庭や事業所から排出されるごみについて

ごみの
最終処分量の低減

最終処分場の不足を防ぎます。

リサイクル率の
向上

資源の有効活用を進めます。

ごみ処理費用の
軽減

ごみ処理の効率化を進めます。

<平成 38 年度までの目標値>

人口の見通し

平成 27 年度 (現状値)
88,256 人

平成 38 年度 (見通し)
97,703 人

年間ごみ総量 (家庭系+事業系、 資源を除く)

平成 27 年度 (現状値)
21,996t

平成 38 年度 (目標値)
22,680t

市民 1 人 1 日 当たりの 家庭系ごみ量

平成 27 年度 (現状値)
515g/人・日

平成 38 年度 (目標値)
483g/人・日

リサイクル率 (資源を含むごみ 総量に対する資源 化の割合)

平成 27 年度 (現状値)
27.1%

平成 38 年度 (目標値)
30%

<日進市が 5 年間で実施する重点施策>

【重点 1】燃えないごみの分別・収集方法の変更

- ・「陶磁器・ガラス」「金属」「スプレー缶」「容器包装を除くプラスチック」について変更します。

【重点 2】生ごみの減量の促進

- ・生ごみの 5% 減量を実現させるため、啓発や情報提供、食品ロスの減少の促進等を行います。

【重点 3】紙類の資源回収の促進

- ・紙類の 20% の資源化を目標に、地域団体による資源回収事業などの強化・改良を行います。

【重点 4】事業系ごみの減量の促進

- ・今後の事業系ごみの減量に向けて、事業系ごみの排出状況等の把握・分析を行います。

<市民・事業所へのご協力をお願い>

★ごみの減量や分別の徹底

- ・分別・収集方法の変更への対応とともに、ごみの減量や分別の徹底をお願いします。

★ごみの効率的な処理のための情報収集や調査への協力

- ・ごみ処理の効率化に向け、ごみの実態の把握・分析へのご協力をお願いします。

★ごみについて関心を持つ、考える

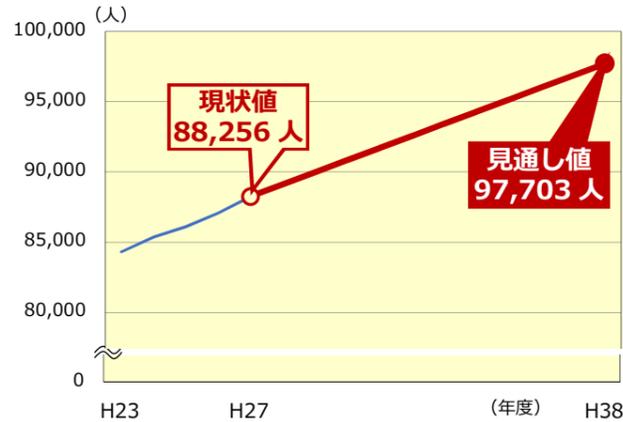
- ・ごみに関して興味や関心を持ち、減量やリサイクルについて常に考えてください。



ごみに関する新しい目標値

(人口の見通し)

平成 27 年度の 88,256 人から 38 年度には 99,703 人に、11%増加する見通しです。



目標 市民 1 人 1 日当たりの家庭系ごみ量

平成 27 年度の 515g/人・日から 38 年度には 483g/人・日に、6%減少を目標とします。



目標 年間ごみ総量 (家庭系+事業系、資源を除く)

平成27年度の21,996tから38年度には22,268tに、増加は3%に抑えることを目標とします。



目標 リサイクル率

平成 27 年度の 27.1%から 38 年度には 30%に、3ポイント上昇を目標とします。



<ごみの最終処分量>

一般廃棄物のうち、焼却やリサイクルできないごみや、焼却した後の灰は、最終処分として埋立しています。日進市の一般廃棄物の最終処分は、尾三衛生組合を通じて、市外の2ヶ所の最終埋立処分場に埋立を依頼しており、最終処分量を低減させることにより、最終埋立処分場の負担を軽減させる必要があります。

<リサイクル率>

リサイクル率は、資源を含むごみ総量に対する資源化するものの割合です。平成 26 年度のリサイクル率は、全国 20.6%、愛知県 22.3%に比べて、日進市は 27.7%と高いリサイクル率となっています。今後もさらに分別・再生利用を進めることにより、高いリサイクル率を目指します。

<ごみ処理費用>

ごみ処理においては、収集・運搬、中間処理、焼却や最終処分を担当している尾三衛生組合の運営に費用がかかっており、平成 26 年度の決算では約 2 億 2 千万円、日進市の会計の 3.6%がごみ処理費用となっています。ごみ袋購入費用を手数料として徴収させていただいていますが、ごみ処理を効率化させて費用を低減し、日進市の財政への負担を軽減させる必要があります。

ごみの収集に関する制度の主な変更点

①「燃えないごみ」を品目ごとに分別収集します。

⇒分別収集により、埋立処分量の削減に貢献します。

※変更は平成 29 年度の後半から順次実施していく予定です。
詳細の実施時期については別途お知らせします。

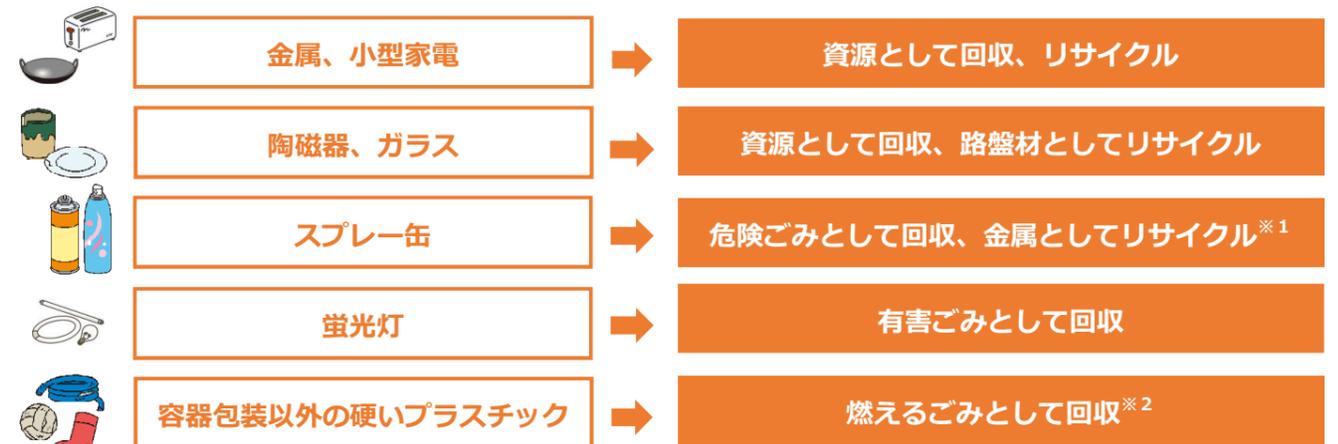


【現行の収集方法】

「燃えないごみ」として一括して収集

【新しい分別・収集方法】

品目別に分別して収集、できるだけリサイクル



※¹ スプレー缶は、国の方針に従い、穴あけ時や収集運搬の際の火災事故防止のため、穴をあけずに危険ごみとして分別収集します。

※² 容器包装以外の硬いプラスチックは、リサイクルできないため、現在は埋め立てしています。尾三衛生組合の焼却炉は硬質プラスチックを処理することが可能であるため、埋立量を減らすために、今後は燃えるごみとして収集し、焼却処分します。

②ごみの収集曜日を変更します。

⇒市民の利便性に配慮しながら、収集の効率化を図り、費用の削減に繋がります。

※変更の内容や時期については、市民のみなさんのご意見をお聞きしながら、今後決定します。

ごみの減量や再資源化の促進は、行政と市民・事業者のみなさんが、
ごみの排出について意識しながら、それぞれの役割を果たすことにより実現しましょう！

【日進市】

ごみ減量、再資源化の目標値設定
目標達成のための仕組みの構築
効率的な収集・運搬・処理等の実施
効率的な市民サービスの向上

【市民・事業所】

ごみ処理方法等に対する理解
ごみの減量や再生利用を
想定した生活や事業の実施